

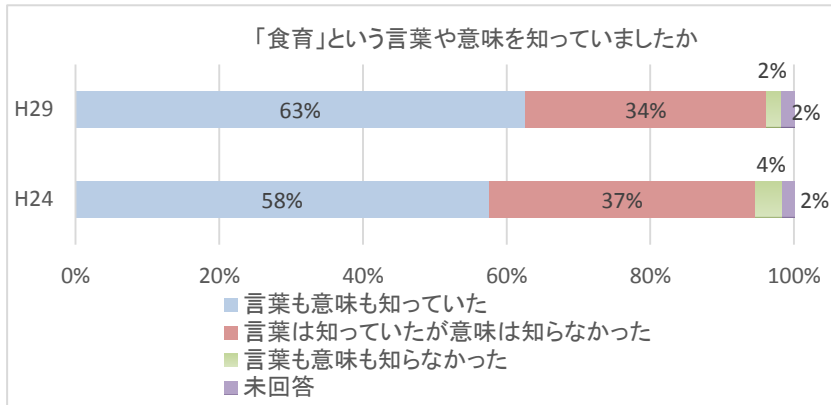
留萌市「食育」に関する市民アンケート調査結果(2017年度)

対象：3歳～15歳までの子育て世帯 回答件数：1,030件(回答率62.4%)

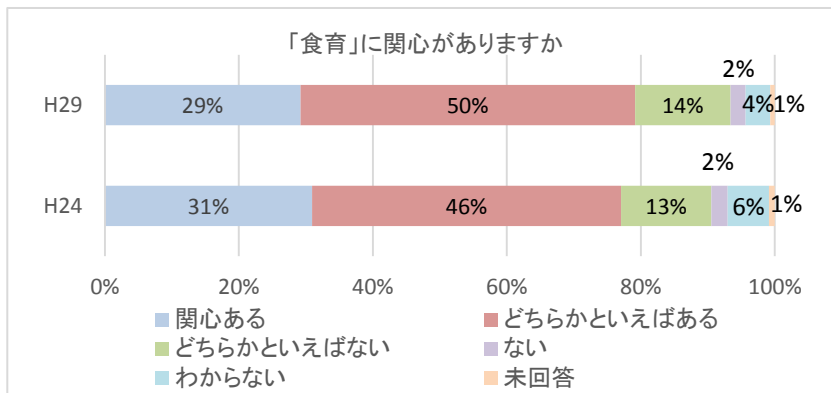
調査方法：市内2幼稚園、3保育園、8小中学校の保護者へのアンケート

調査期間：2017(H29).12.11～12.21

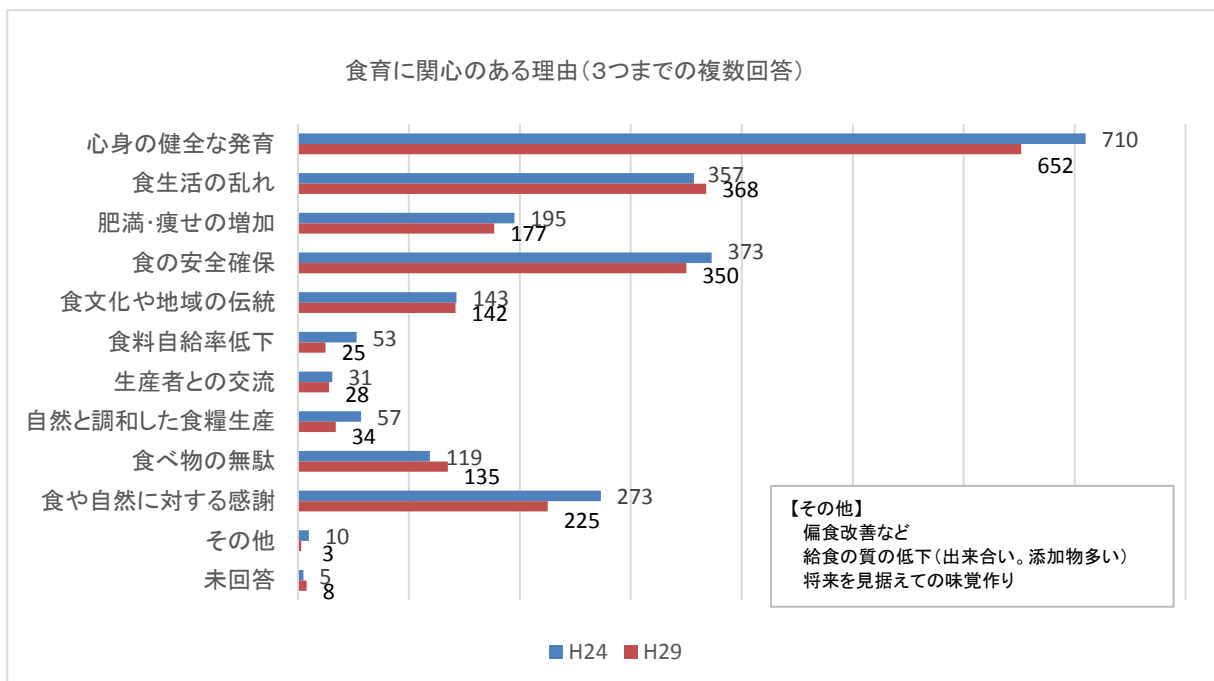
1. 食育に関する意識(①関心度)



「食育」という言葉については、「言葉も意味も知っていた」「言葉だけ知っていた」を合わせて、97%の家庭で知っているという回答しており、平成24年度調査より2ポイント増加しています。

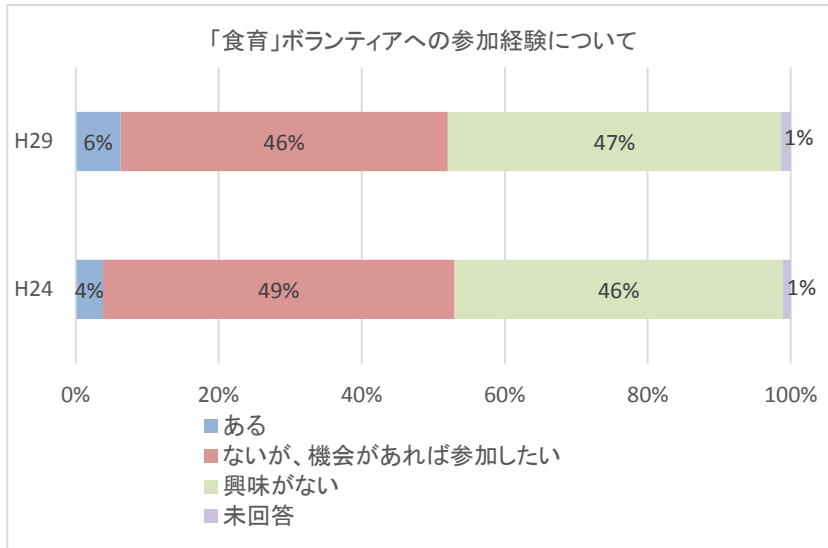


「食育」への関心度については、「関心ある」「どちらかといえばある」といってあわせて79%の家庭で関心があると回答しており、平成24年度調査より2ポイント増加しています。

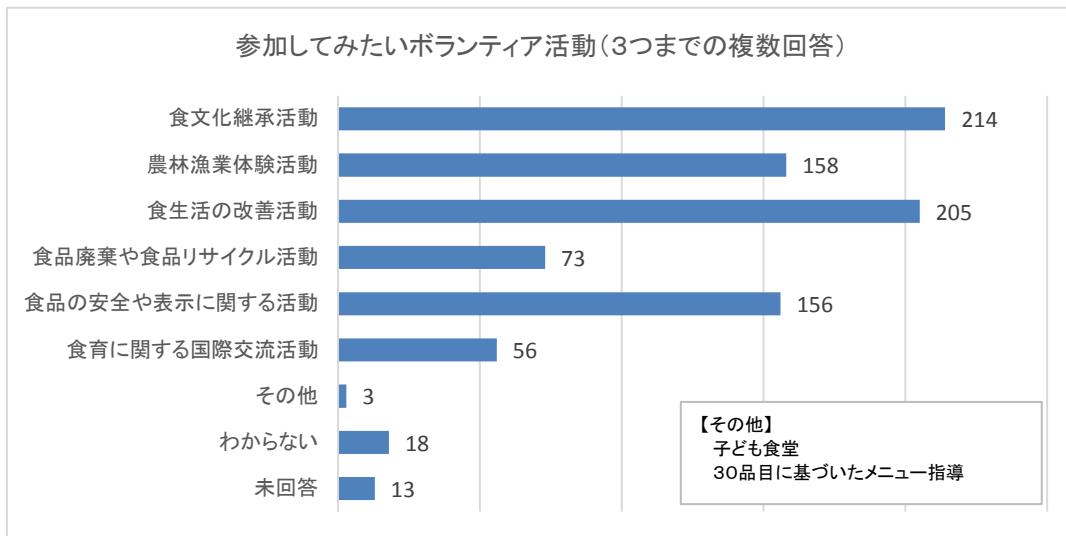


「食育」に関心のある理由としては、「心身の健全な発育」、「食生活の乱れ」、「食の安全確保」と続いています。子どもの健康面から食育を考える傾向にあるものと思われます。

1. 食育に関する意識 (②ボランティア活動)

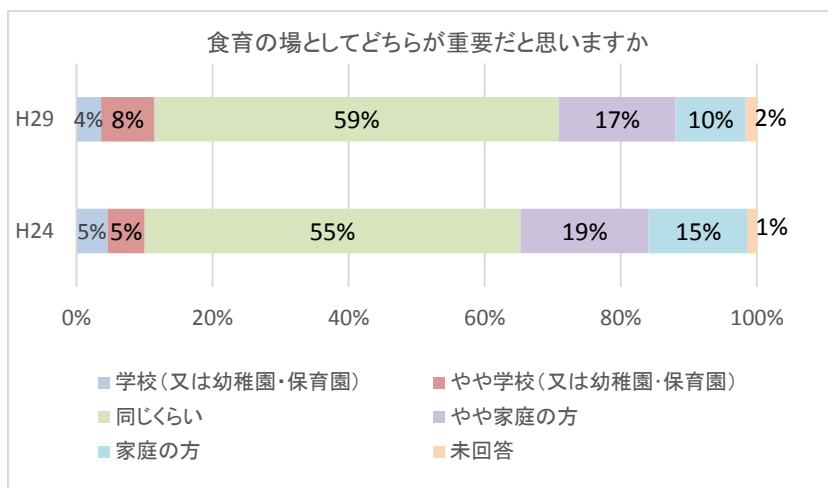


食育ボランティアへの参加経験は6%と少ないですが、平成24年度調査より2ポイント増加しています。
また、「機会があれば参加したい」と合わせると約半数(52%)の方が興味を示しています。



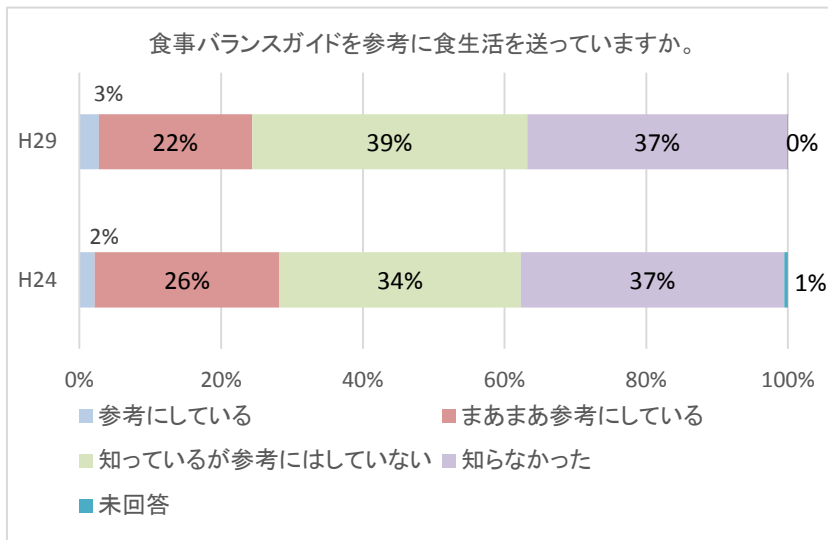
「ボランティア」の活動内容については、「郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動」、「食生活の改善に関する活動」、「農林漁業に関する体験活動」と続いています。

1. 食育に関する意識 (③役割)



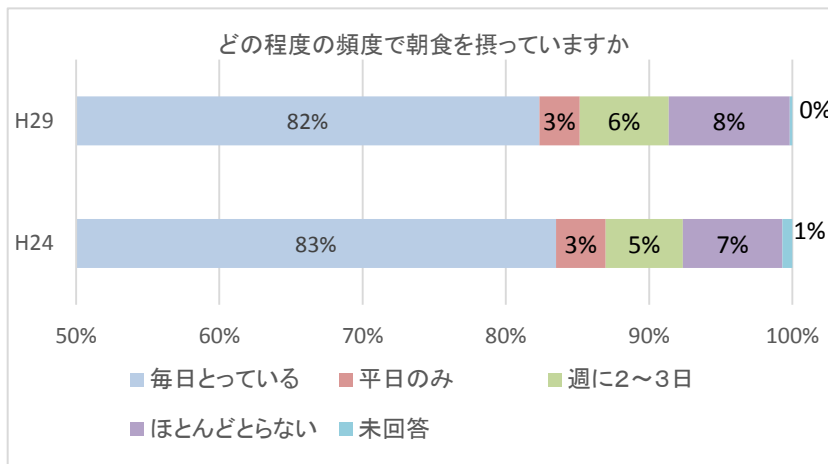
「食育の場」については、59%と半数以上の方が学校(幼稚園、保育園含む)と家庭「同じくらい重要」と答えており、学校(幼稚園、保育園含む)、家庭の連携方策が不可欠と考えられます。

1. 食育に関する意識 (④バランスの取れた食事)



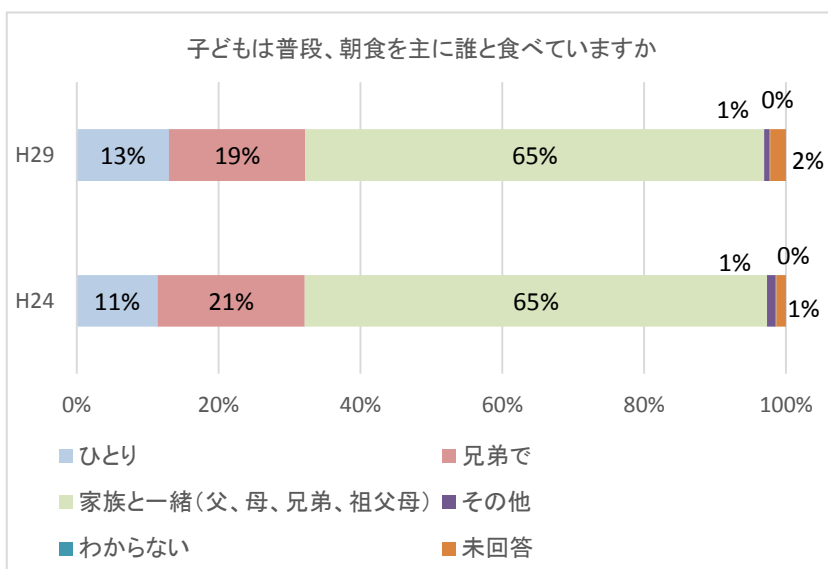
「参考にしている」「まあまあ参考にしている」は合わせて25%となっており、第2次食育推進計画での目標(現状値28%より増加)を下回る結果となっています。食育推進計画では、バランスの良い食事による「健食」を目指す姿としているため、今後も継続して、周知していく必要があります。

2. 家庭での食生活 (親の朝食)



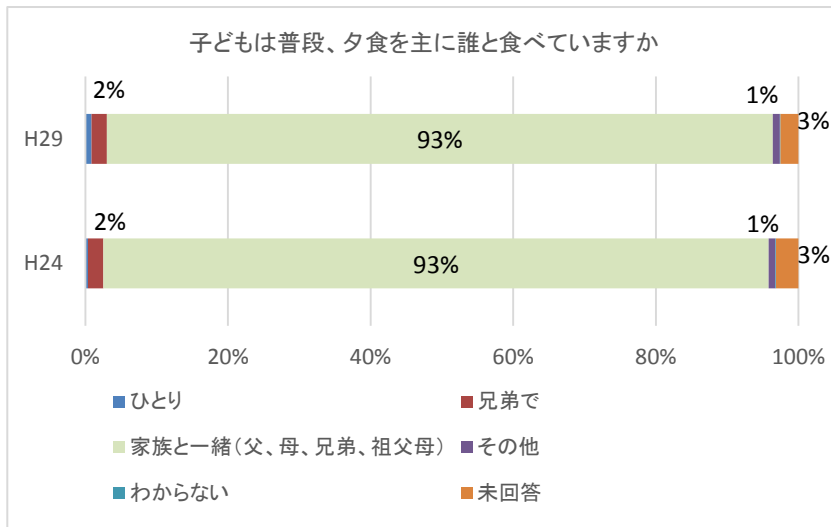
子どもの生活習慣を考える上で、朝食はとても重要であり、親の朝食摂取頻度が子どもの欠食度合いを考える一つの参考となります。本調査の結果では、約8割(82%)の方が朝食を毎日食べていると回答していますが、約1割(8%)の人がほとんど摂らない状況となっています。

2. 家庭での食生活 (家族での食事)



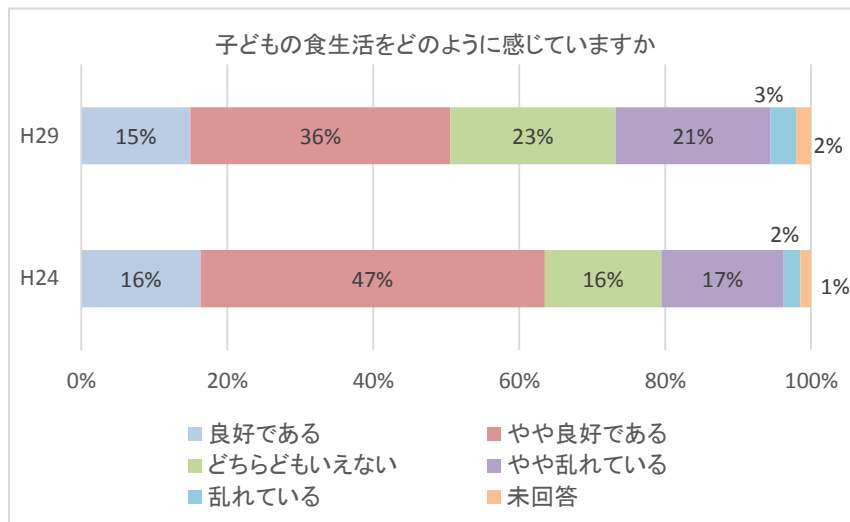
家庭における朝食については、約1割(13%)が「ひとり」で食べており、2割(19%)が「兄弟だけ」で食べているという結果となっています。全体の3割が子どもだけで食べている状況となっており、朝食を摂らない親が増えているというのも影響しているものと考えられます。

2. 家庭での食生活（家族での食事）



家庭における夕食については、93%が家族と一緒に食べており、世帯構造の多様化や共働き世代の増加による孤食などが課題にあげられている中、平成24年度調査同様高い水準を保っています。

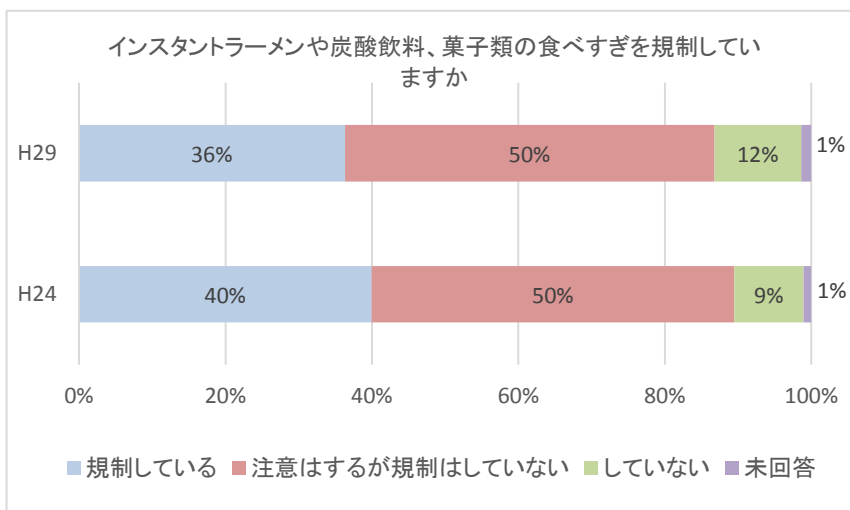
2. 家庭での食生活（家族での食事）



約半数(51%)の家庭が「良好」と回答していますが、約2割(24%)の家庭で食生活の乱れを感じている結果となっています。

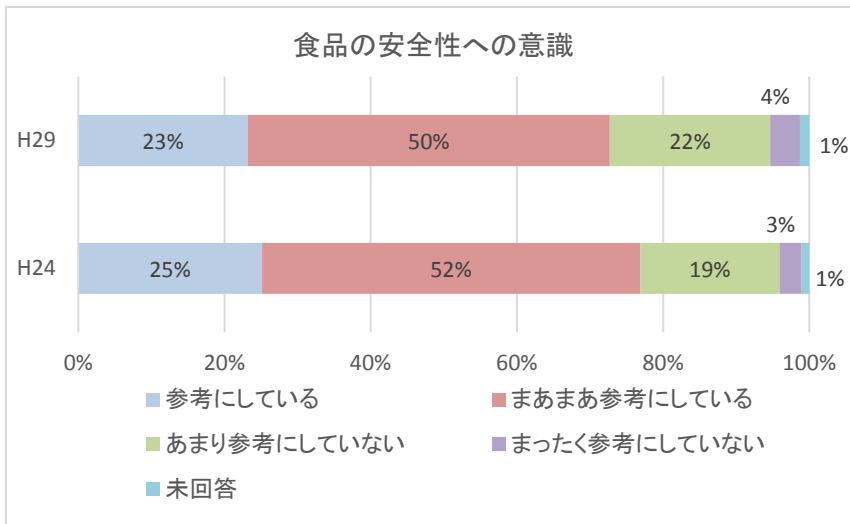
なお、乱れの原因の半数(50%)が「好き嫌いが激しい」と回答しており、続いて「食が細かい」(23%)、「間食が多い」(22%)となっています。

2. 家庭での食生活（家族での食事）



約4割(36%)の家庭で「規制している」と回答しており、約6割(62%)では、「注意のみ」又は「規制していない」と答えています。

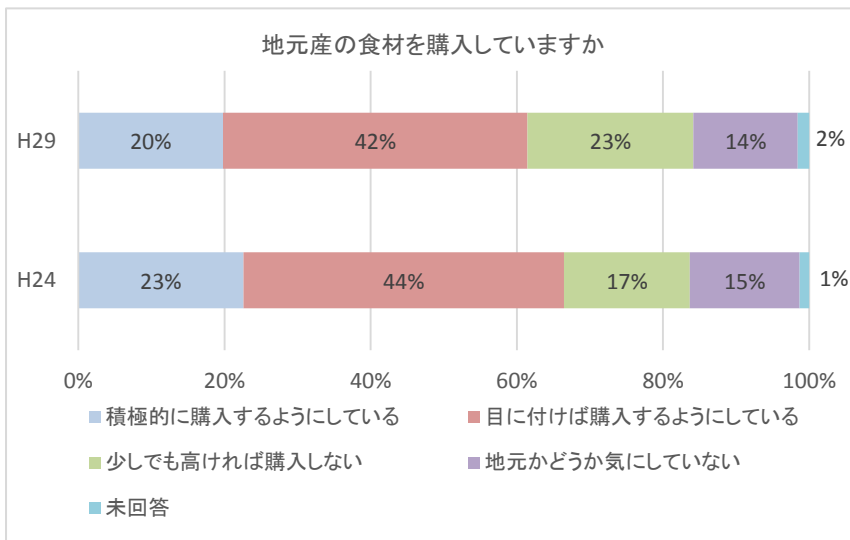
3. 食品の安全性への意識



食品を購入する際、食品表示を「参考になっている」、「まあまあ参考になっている」という意見が合わせて73%となっており、第2次食育推進計画での目標(現状値77%より増加)を下回る結果となっています。

食育推進計画では、食に対する知識を学ぶ「知食」を目指す姿としていたため、今後も継続して、周知していく必要があります。

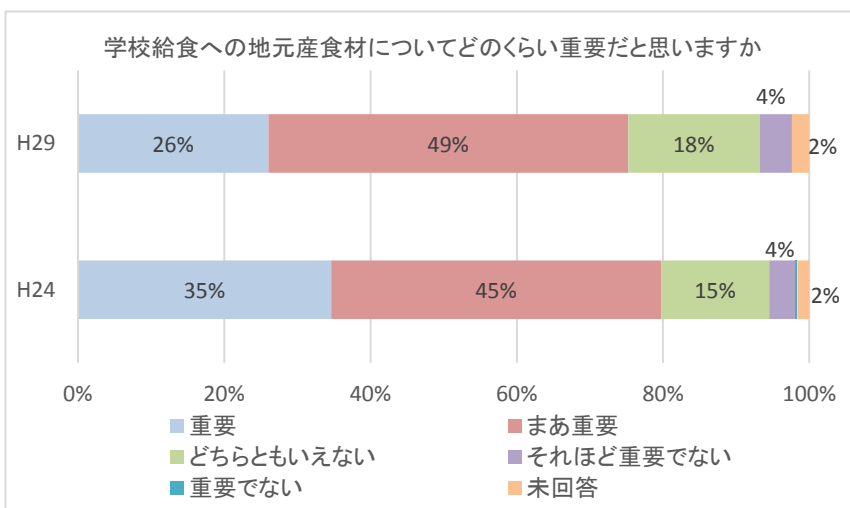
3. 地産地消（家庭における地元消費）



「積極的に購入する」、「目に付けば購入する」と回答している家庭が約6割(62%)となっています。

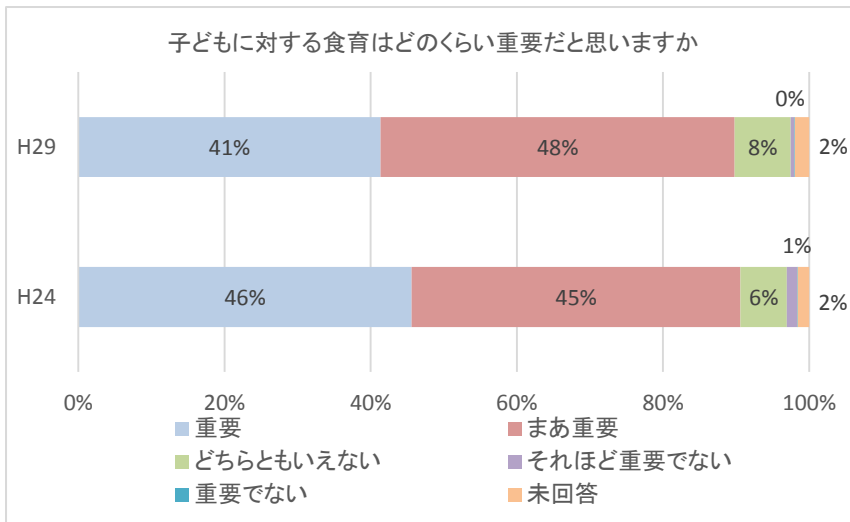
できるだけ地元産の食材購入を意識している家庭が多く存在しているものと考えられます。

3. 地産地消（学校給食）

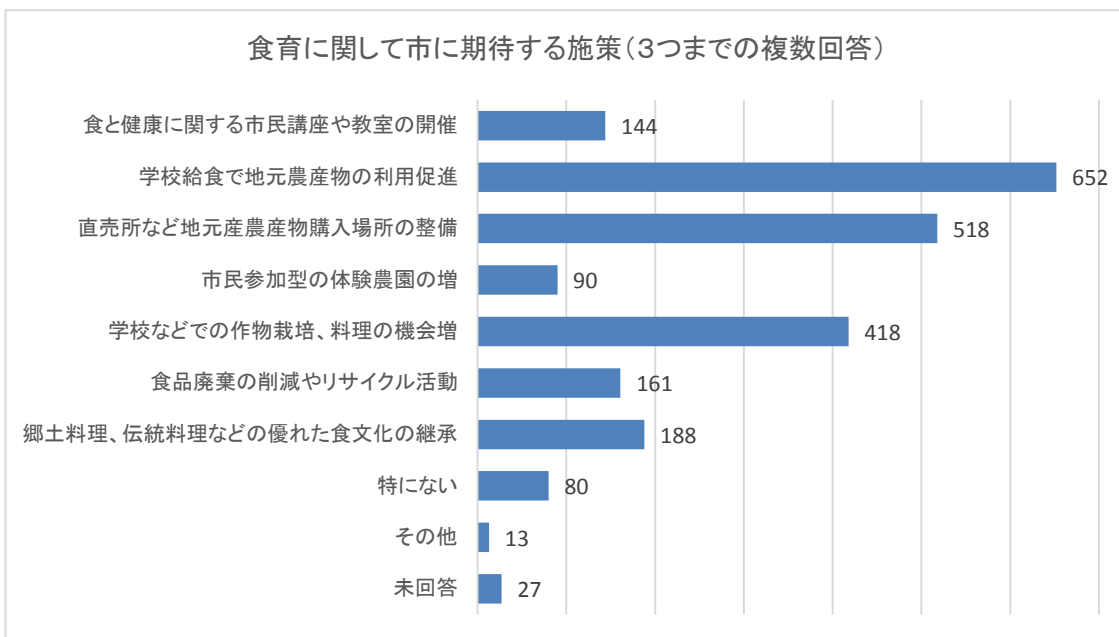


約8割(75%)の家庭で「重要」、「まあ重要」と回答しており、学校給食への地元産食材活用の期待が非常に高い結果となっています。

4. 食育についての展望



約9割(89%)の家庭で「重要」、「まあ重要」と回答しており、多くの家庭で子どもたちへの食育の重要性を示唆している結果となっています。今後においても食育活動の充実が求められています。



【その他】

給食を幼稚園でも毎日提供すべきだと思う(2件)
 給食の味付けがとて濃いので改善して欲しい
 小さいうちから学校でも体験型やその物になるまでの過程を教えて欲しい
 触れる機会を作って欲しい
 給食で地元の物を使用するのはいいが、子どもたちからはおいしくないと思うときがある
 かずのこの時はとくに。子供たちがおいしくないと感じる地元産物なら使用しないほうがよいのでは
 食べ物はどういう風にみんなの口に届いているのかの経過
 子どもと一緒に参加できるイベント等、食に関することを取り入れて欲しい
 安く地元食材が手に入るようにして欲しい
 食べることを楽しんで欲しい

食育に関して市に期待する施策としては「学校給食での地元農産物の利用促進」、「学校などでの作物栽培、料理の機会を増やす」といった、学校現場における食育活動の充実を期待する回答数が多く寄せられています。また「直売所など、地元農産物購入場所の整備」といった地産地消の推進や、地域の食文化等に触れる機会づくりについても期待が寄せられています。